

もう一人の自分

少年時代・私は一九二七年 信州は浅間風吹
く寒冷地佐久高原の貧乏百姓の次男坊として
十人兄弟の中向に生まれました。

十人の子供を育てる両親の苦しみは、
経済的に肉体的にも大変であった。

しかし、この計畫は実在界において今から
七百年も前に具体的に作られたものである。

更に一八九〇の年更に正確さを記するにため

実行段階を具体的に出生地を北海道、山形、

のいづれかを決定したのが、地理
的条件や環境等の問題で、長野を選んだ
のである。先ず父母の選定が決定し、実在界より
両親の生命がこの現実界に肉体を持つたので
ある。この問題は多くの人々によって証明
せうけることになってゐる。

私ばかりではなく、今人類がみな目的が
みえ、よって最も精妙な計画によつて、こ
の現実界に修行場を求め、生かすのである。
食べな水飲百姓を選んだのも、私自身であ

り 地位、名譽はこの現実界の人々が習て意
によつて造つたものであり、神の意によつて
定められたものではありません。

権力や因習によつて 人間の上と称する人々

によつて作られるものであります。(頁参考)

しかし 地位、名譽、権力者、金持、負えん

にかゝはらず 神佛の慈悲はみな平等であり

太陽の熱光の如くにや、も 万生万物に平等

にあつてゐることを見てを解るはずであります

す。

五ノ巻 中巻 三ノ巻 三ノ巻

苦しい環境の中においては 私は特くに苦し
まねる道を歩んで来たのであります。

しかし十才の時にふとしたことから原因不
明の病気になり、生と死の境界を何十回と経
験したのである。

夏休を終り九月三日の夜八時、突然心
臓が停り意識不明となりたのであります。

死んで流気をしてたことのない私は、このよ
うな現象に両親を始め非常にとまどったので
した。

最初は強んど記憶が全くこの時を境に毎

晩八時のころと、呼吸のみで吸気があまらず

僅か四五秒で心臓が停止し肉体をさす

やは弱くなつてしまふのであつた。

患者はカニツン注射や汗筋もしらようびした。

両親を始めとして兄弟姉妹は、このまゝで

死ぬのではないかと大さわぎ、このような

現象がさんさんと時肉が長くなり五回十回

経験する内に、私の肉体がもう一人の自分

が抜け出して行くのである。

母は私を小脇にかかえ、私を大声で呼んで
 いる。あわてふ返めいて、いる人々は、心配に
 に私の死体を眺めている。

私は心配させまいと母の耳もとで叫けぶの
 があるが通じません。

私の肉体は母に抱かれ、口唇の色は蒼くに
 ブドウ色、彩色は夏とお、手足は力なく抑の
 様に、両親のあわてふ返めいて、いる姿をどう

することも出来ず、らだ響めいてるのであつ
 た。

何が葉のたほいかしとて思つたをんなに
心麻が節をちく もう一人の私は肉体的に入っ
てゐるのである。

この肉体的肉から短かして十五分位であつた。

毎日の様に肉がまゝで定期的にこの現象
が現れ ある時は肉体的から離れてゐるもう一

人の私は自由自在であり 既に此の世を去つ

た友人が呼びに来たり 美しい花園を散歩し

たり信じらるゝような現象が展開し木を行

め
くのびあつた。

又じんを際向かろも自由は律が抜けきし

悦々忍者の配書の様であった。

既に医者には見識を極^めた。良^いといわねば治

療を試みるのであります。

近所の成田山に来らねる 針灸で必ず治す

るといわれればこの医者にかゝり 遂に私の

頭は針と紙で凸凹に作りました。

父は信仰以外にないて苦しい時の神頼み。

千代をお参りすねば良くなるよと云ふ ありや

る神託をお参りしるのである。